

令和8年度 学校経営にあたって

校長 相庭 俊一

1 学校経営の方針

昨年度、本校の不易のスローガン「ゆたかに たくましく」の下、学校経営の最上位目標を「なりたい自分になるために、自分で考えて、責任をもって行動する南中生」と設定した。「なりたい自分になるために」は、自らの幸せを追求し、失敗を恐れず、目標に向かって挑戦する生徒の姿を、「自分で考えて、責任をもって行動する南中生」には、主体性と当事者性をもって、何事も自己決定できる自律した生徒の姿を示している。

昨年度は、学校行事や部活動、進路実現に向けては「なりたい自分」を意識した取組は顕著だったが、日常的な取組においては物足りなさを感じた。失敗を恐れない心理的安全性を確保することによって、生徒の挑戦を一層促していきたい。また、「自分で考えて、責任をもって行動する」自律した南中生の姿は一部の生徒にしか見られなかった。生徒の自律を促すためには、我々大人が手をかけすぎないこと、生徒の自己決定の機会を奪ってしまわないこと、が大切であることを全教職員で共通理解し、実践につなげていきたい。

教職員の行動指針としては、今年度も引き続き「スマイル&リスペクト」を合い言葉に、心理的安全性の確保に努めていきたい。「子どもたちにとっての最大のごほうびは、教師の『笑顔』と『機嫌のよさ』」（川上康則氏）であり、「子どもを『人間として』『子どもとして』『個人として』尊重する子ども観の確立」（山下雅彦氏）を基調に、人権侵害は絶対に許さないという強い姿勢で「スマイル&リスペクト」を全教職員で共通実践していきたい。

2 学校教育目標

「ゆたかに たくましく」

～なりたい自分になるために、自分で考えて、責任をもって行動する南中生～

3 目指す姿

(1) 目指す生徒像と育てたい資質・能力

- ① 自分の頭で考えて、自己決定できる自律した生徒
～主体性と当事者性をもって、様々なことに挑戦して自己の可能性を広げる力～
- ② 思いやりの心もち、互いに認め合いながら高め合う生徒
～人の気持ちを理解し、人と関わりながら学び続ける力～
- ③ 心と体を鍛え、生活と学びの質を高める生徒
～心身の健康に気を配り、社会の一員としてよりよい生き方を追求する力～

(2) 目指す教師像

- ① スマイル&リスペクトを実践する教師
 - ・機嫌よく笑顔で生徒と関わり合うことを意識して実践する。(スマイル)
 - ・生徒を「人間として」「子どもとして」「個人として」尊重する。(リスペクト)
- ② 生徒に自己決定を促すことによって、生徒の自己肯定感を高める教師
 - ・命令形の指示(学習:ノート〇ページ 部活:ダッシュ〇本)を控える。
 - ・疑問形(「どうしたの?」「どうしたいの?」「何か手伝えることはある?」)で、生徒の自己決定を促す。
- ③ トラブルや対立を生徒の学びに変えようとする教師

(3) 目指す学校像

- ① 教師の笑顔と機嫌のよさによって、生徒を優しく温かく迎える学校
- ② 働きやすさを追求することによって、教職員の心身の健康を担保する学校
- ③ 成長した生徒の姿によって、保護者や地域から信頼される学校
- ④ 世界の平和と持続可能な社会をつくるための学校

4 経営の重点と主な施策

(1) 心理的安全性の確保

- ① 「スマイル&リスペクト」の共通実践
 - ア 機嫌よく笑顔で生徒と関わり合い、生徒を一人の人間として尊重する。
 - イ 威圧的な態度、強い叱責、ネガティブ要素をもった言葉かけなど、不適切な指導を排除し、生徒の名前には敬称を付けて呼ぶ。
- ② 発達支持的生徒指導の推進
 - ア 生徒への挨拶、声かけ、励まし、賞賛、対話を積極的に行う。
 - イ 多様性に配慮し、均質化のみに走らない指導を行う。
 - ウ 「困った、助けて」と言えるように適切な援助希求を促す。
- ③ 挑戦の推奨と失敗の容認
 - ア 生徒が自分で考えて、自己決定し、挑戦することを後押しする。
 - イ 失敗はマイナスと捉えず、自己を成長させるプラスと捉える。
 - ウ 安心して「分からない」が言える教室をつくるよう工夫する。
- ④ 「チーム担任制」の効果的な一部導入
 - ア 学年部全員が担任となることで生徒理解を深め、持続可能な学級・学年経営を行う。
 - イ 生徒たちが主体的にクラスをつくることで生徒の自律を促す。

(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

- ア 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。
- イ 生徒が自由な発想で日常的にICTを活用できるようにする。
- ウ 対話や協働を通じて、生徒自ら問題を発見し解決していく過程を重視する。

(3) 教職員の資質能力の向上と働き方改革の推進

- ① 教職員の資質能力の向上
 - ア 人事評価とリンクした明確な指標設定に基づいた研修に努める。
 - イ 初任者研修、中堅教諭等資質向上研修等を活用した校内研修の充実を図る。
- ② 教職員の働き方改革の推進
 - ア 教育計画や学校行事、PTA活動等を抜本的に見直す。
 - イ 部活動の地域移行を視野に入れ、外部コーチ・部活動指導員を積極的に活用する。
- ③ 「チーム担任制」の効果的な一部導入

(4) 開かれた学校と信頼される学校づくりの推進

- ア 鶴舞小との一小一中体制による新たな連携の在り方について研究を進める。
- イ CS機能を生かして家庭や地域の声を学校運営に反映させるようにする。
- ウ ホームページ、一斉メール等により積極的な情報発信を行う。